

令和4年度
平塚駅周辺地区の将来構想に関する
アウトリーチの結果報告書

平塚市

もくじ

第1章 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 回答者の属性	1
4. 結果利用上の注意	2
第2章 結果の概要	3
①賑わい・交流起点となる駅前広場のイメージ（例）	3
②道路のイメージ（例）	4
③公園・広場等のイメージ（例）	8
④市街地の再整備のイメージ（例）	10
個別意見	13
第3章 結果の考察	14

第1章 調査の概要

1. 目的

平塚駅周辺地区の将来構想の検討にあたり実施した市民アンケートにおいて、回収率の低かった学生や子育て世代等の若者を中心とした意見を反映させるため、アウトリーチ（パネル展示に伴う意見聴取）を行いました。

2. 調査方法

調査対象：市内2商業施設、平塚市中央図書館及び産業フェスへの来場者並びに平塚農商高校の生徒

参加人数：354名

調査方法：平塚駅周辺地区の20年後の未来の方向性をイメージしたパネルのうち、参加者が必要と考える機能の項目にシールを貼付することにより意見表明する

調査期間：令和5年1月11日（水）～2月23日（木・祝）

	実施場所	実施日	参加人数
1	ラスカ平塚	令和5年1月11日(水)	49名
2	ららぽーと湘南平塚	令和5年1月12日(木)、13日(金)	121名
3	平塚市中央図書館	令和5年1月22日(日)	82名
4	平塚農商高校	令和5年1月27日(金)	33名
5	産業フェス(見附台公園内)	令和5年2月23日(木・祝)	69名
		計	354名

3. 回答者の属性

性別	回答数	割合
男性	162	45.8%
女性	192	54.2%
その他	0	0%
不明等	0	0%

年代	回答数	割合
10歳代	81	23%
20歳代	29	8%
30歳代	92	26%
40歳代	39	11%
50歳代	37	10%
60歳代	44	12%
70歳代	28	8%
80歳以上	4	1%
不明等	0	0%

4. 結果利用上の注意

次のとおり集計を行いました。

- ・ 図表中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- ・ 図表中の「全体」のうち、数値が**太字**のものは、回答割合が3割を超えたものを示します。
- ・ 結果は百分率（％）で表示し、小数第2位を四捨五入して算出しました。
- ・ 回答の比率（％）は、その質問の回答者数を基数（n）として算出しました。従って、全ての比率を合計すると100％を超えることがあります。
- ・ 80歳以上の回答は70歳代の回答と合算し、70歳以上として算出しています。
- ・ 本文や図表中の選択肢等の表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。

第2章 結果の概要

①賑わい・交流拠点となる駅前広場のイメージ（例）



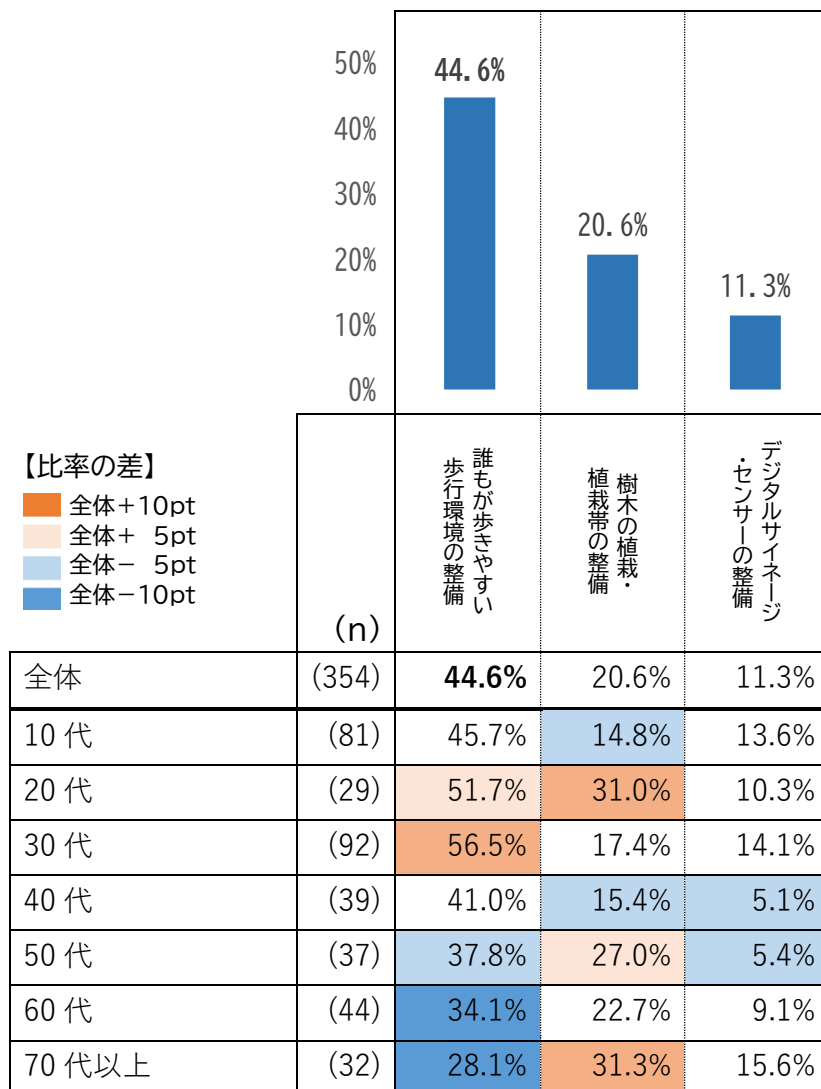
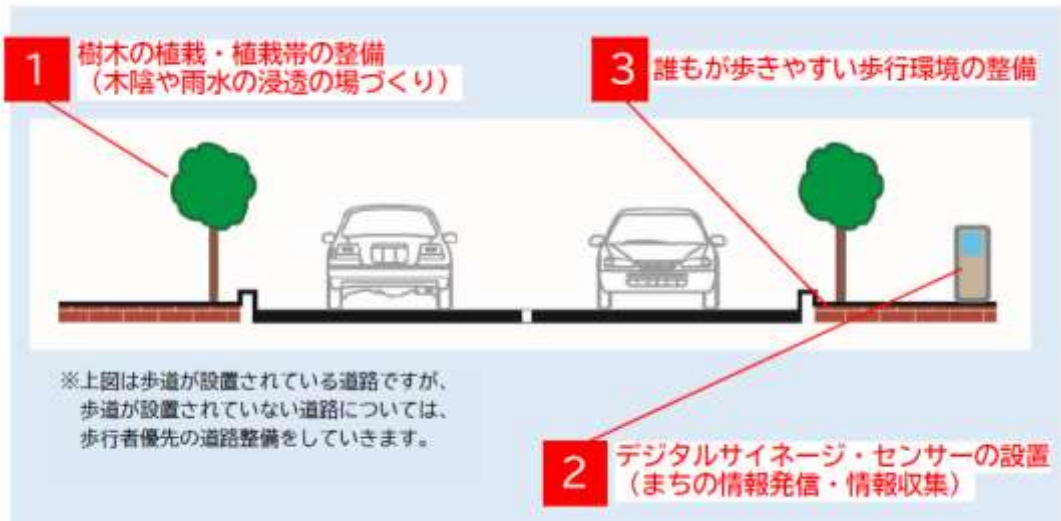
	(n)	ペDESTリアンデッキ 芝生広場の 整備	誰もが歩きやすい 歩行環境の整備	樹木・芝生広場の確保 開発に合わせた	建物と道路・ 広場等の 一体的な活用	樹木の植栽・ 植栽帯の整備	デジタルサイネージ の整備
全体	(354)	46.0%	40.4%	31.6%	26.3%	19.8%	11.9%
10代	(81)	39.5%	29.6%	30.9%	17.3%	14.8%	11.1%
20代	(29)	55.2%	58.6%	34.5%	27.6%	13.8%	3.4%
30代	(92)	50.0%	45.7%	27.2%	26.1%	20.7%	12.0%
40代	(39)	38.5%	41.0%	30.8%	41.0%	30.8%	5.1%
50代	(37)	59.5%	45.9%	40.5%	27.0%	16.2%	13.5%
60代	(44)	43.2%	34.1%	34.1%	29.5%	20.5%	18.2%
70代以上	(32)	40.6%	37.5%	31.3%	25.0%	25.0%	18.8%

【比率の差】

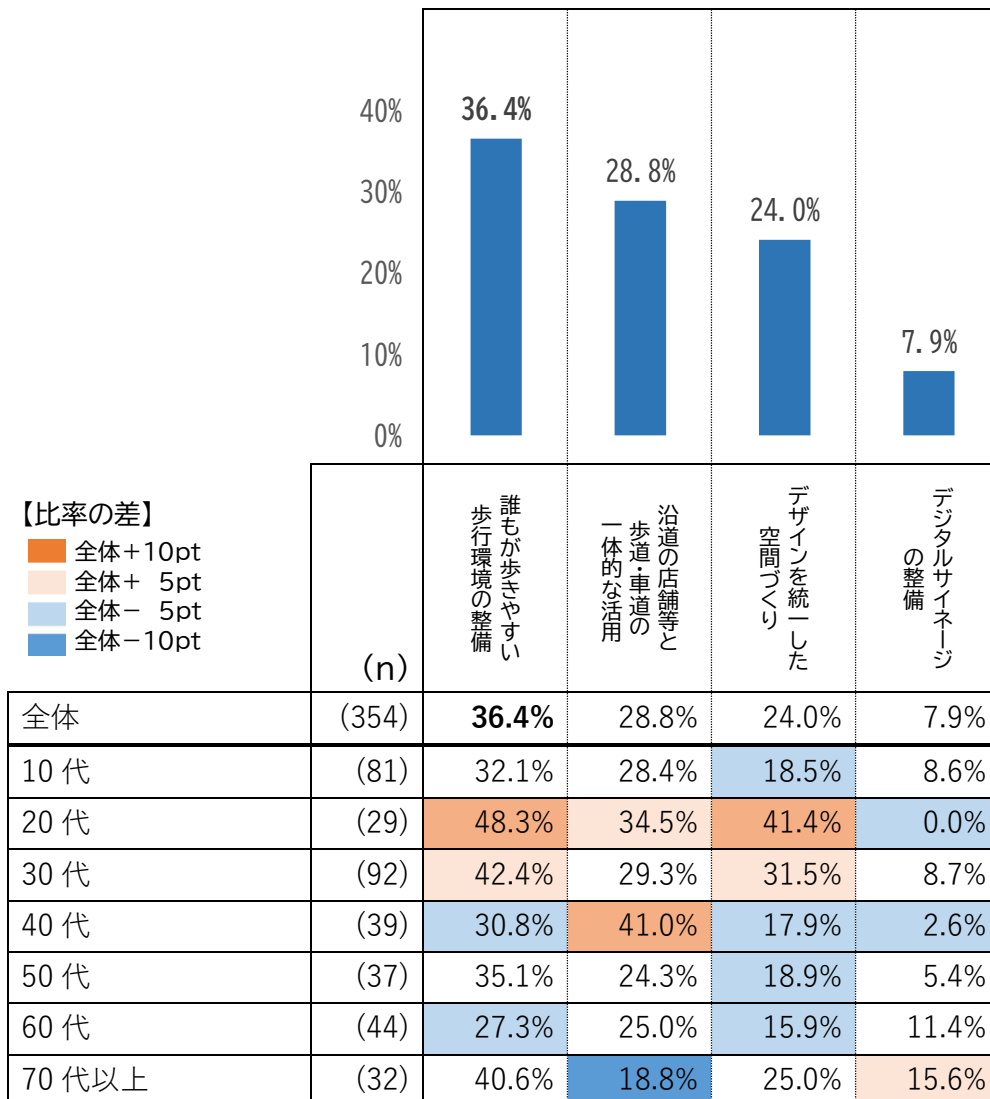
- 全体+10pt
- 全体+ 5pt
- 全体- 5pt
- 全体-10pt

②道路のイメージ（例）

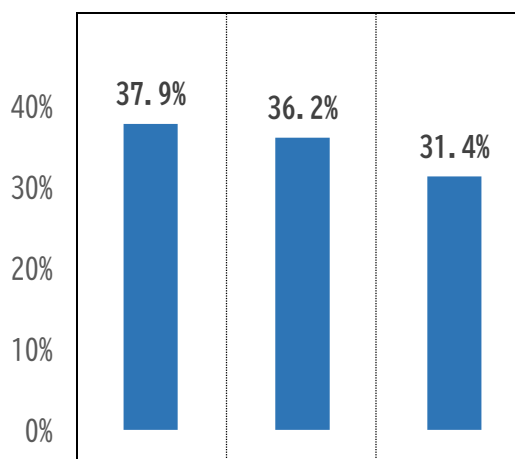
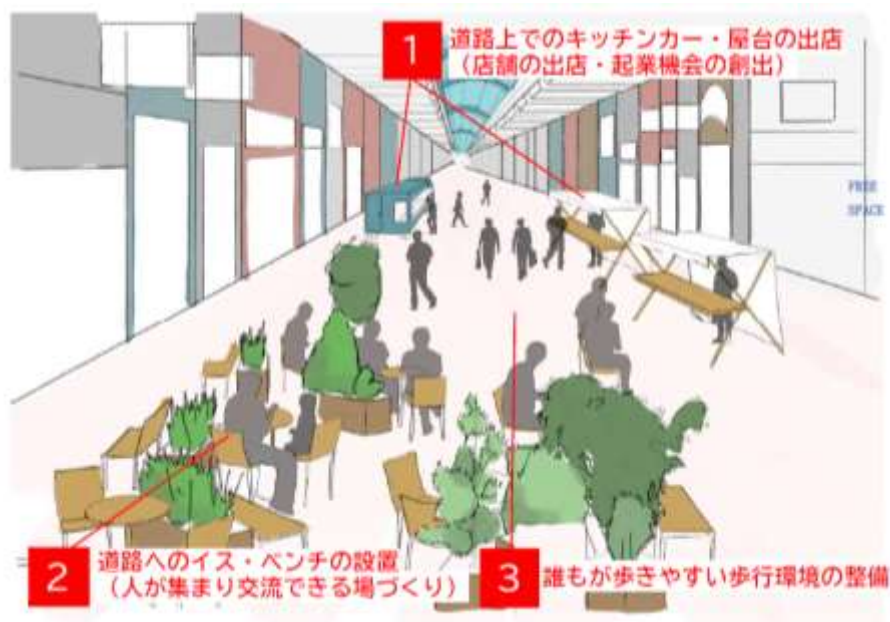
1)道路の原則(一般的な道路のイメージ)



2) 歩道空間を活用する道路のイメージ



3) 歩行者専用通路のイメージ

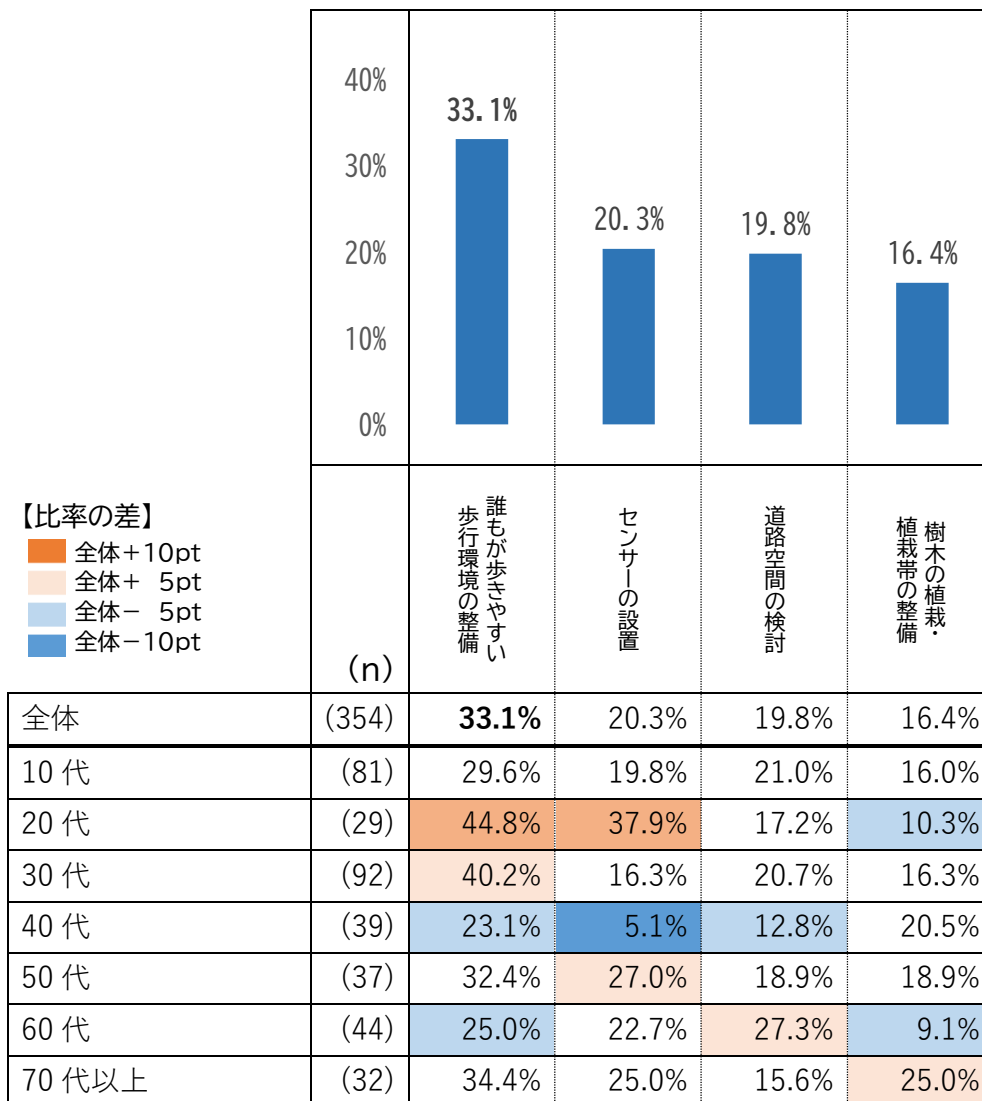
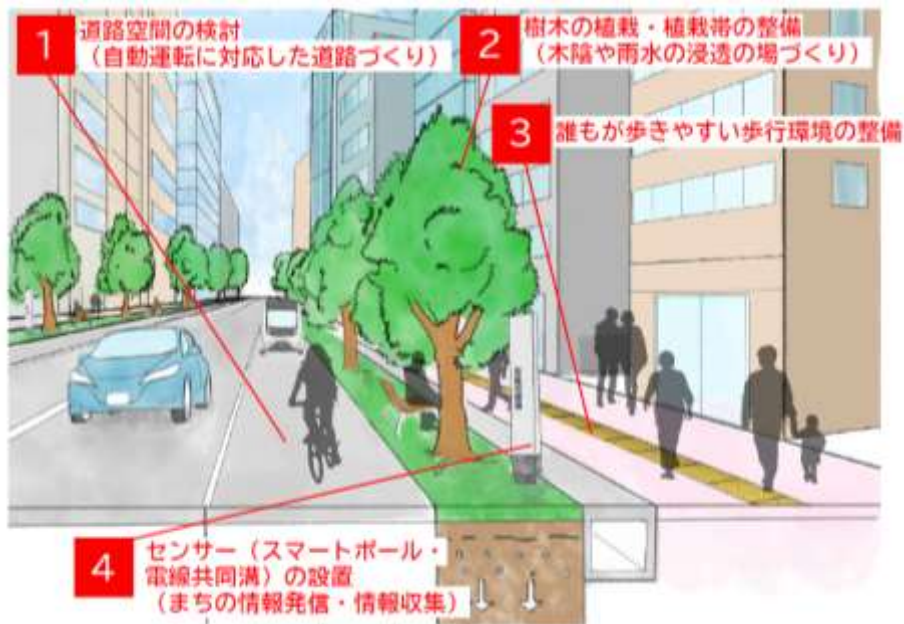


【比率の差】

- 全体+10pt
- 全体+ 5pt
- 全体- 5pt
- 全体-10pt

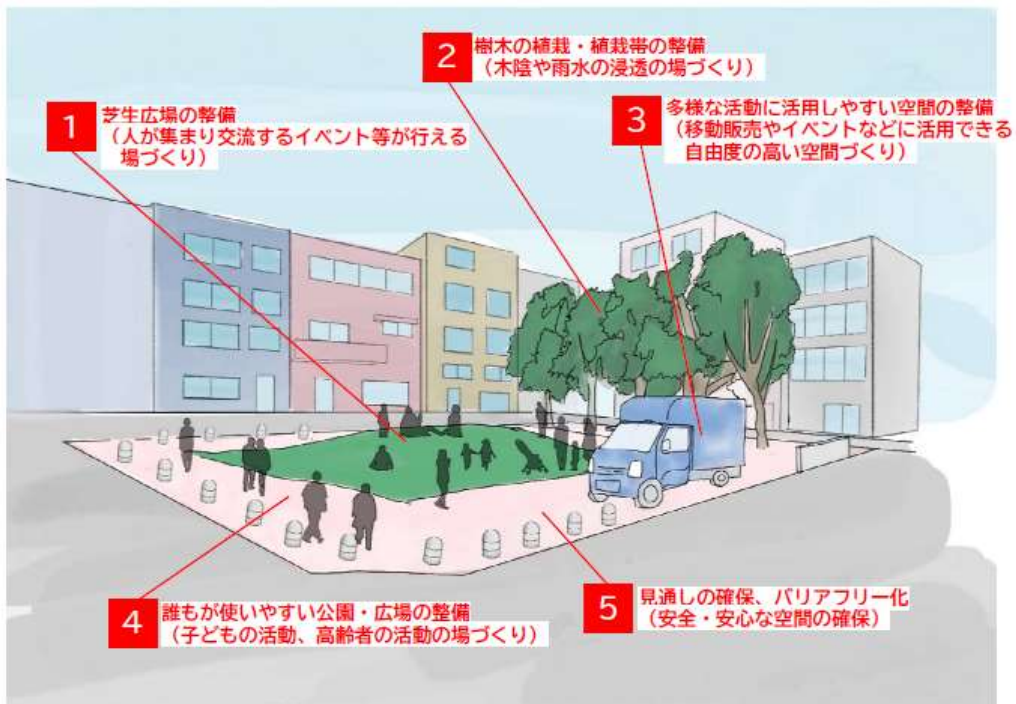
	(n)	誰もが歩きやすい歩行環境の整備	道路上でのキッチンカー・屋台の出店	道路へのイス・ベンチの設置
全体	(354)	37.9%	36.2%	31.4%
10代	(81)	35.8%	49.4%	37.0%
20代	(29)	44.8%	44.8%	44.8%
30代	(92)	38.0%	40.2%	25.0%
40代	(39)	30.8%	20.5%	33.3%
50代	(37)	45.9%	35.1%	32.4%
60代	(44)	29.5%	25.0%	22.7%
70代以上	(32)	46.9%	18.8%	31.3%

4)先導的に新技術を導入する広幅員道路のイメージ



③公園・広場等のイメージ（例）

1)公園・広場の再整備のイメージ



2)空き地を活用した暫定的な交流施設のイメージ

1 空き地を活用したポケットパーク・広場の整備
(暫定的な人が集まり交流する場づくり)

<佐賀市「わいわいコンテナ2」の事例>

空き地にコンテナを置いて暫定的に人が集まり交流するスペースをつくっています。



出典：わいわいプロジェクトホームページ

<喜多方市「くらにわ」の事例>

空き地を活用してポケットパークを整備しています。



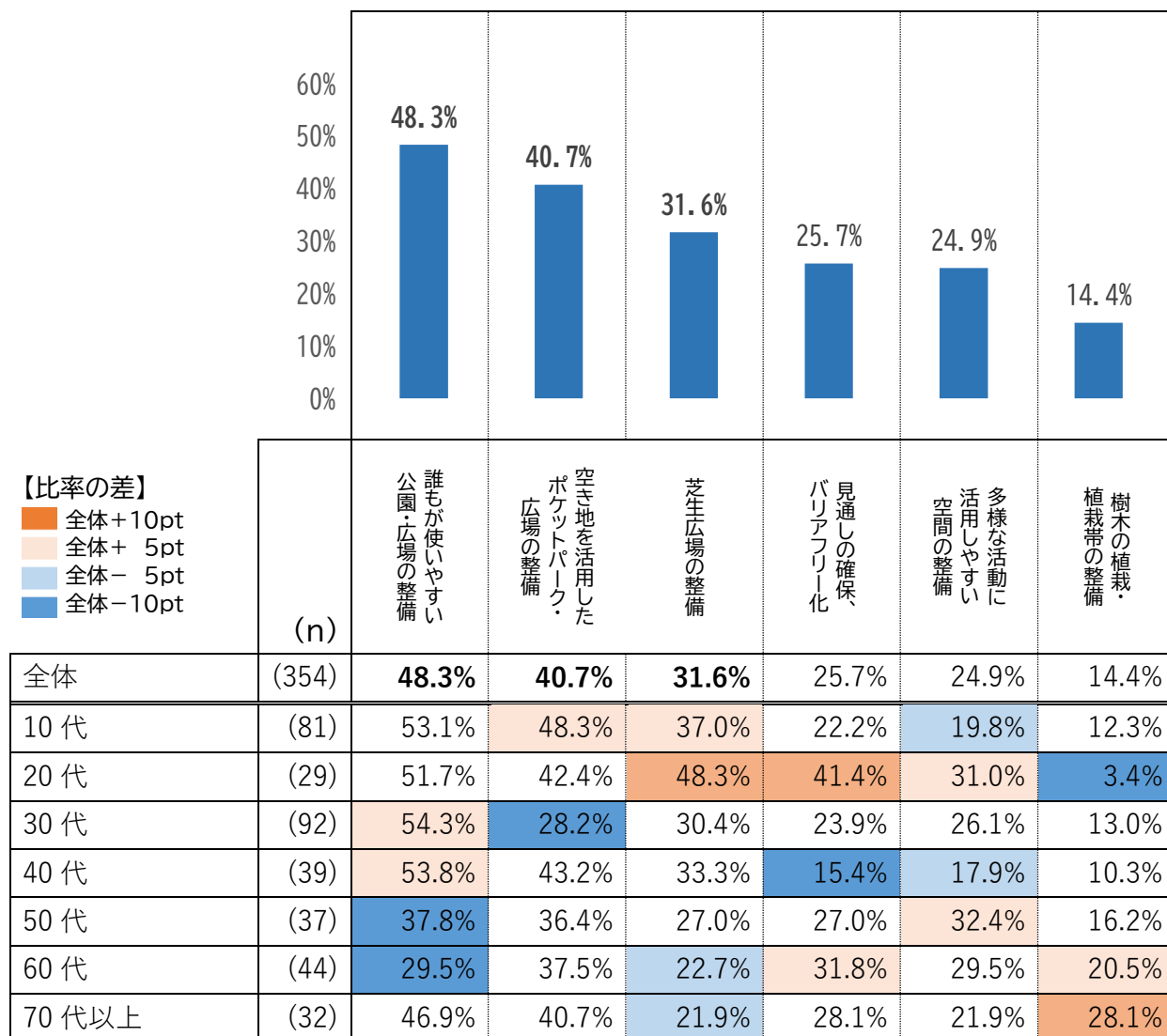
出典：福島県ホームページ

<松山市「みんなの広場」の事例>

空き地を活用してポケットパークを整備しています。

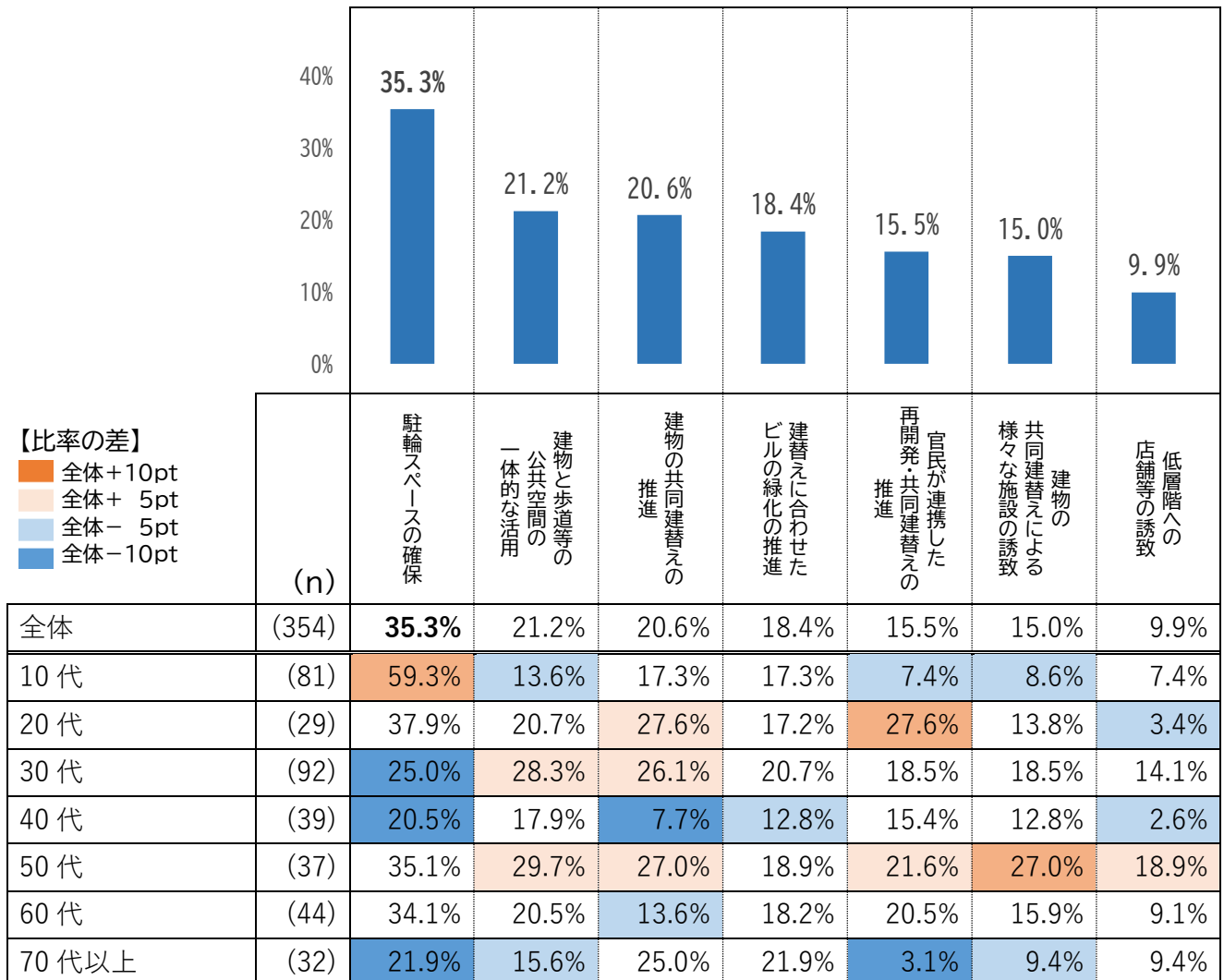
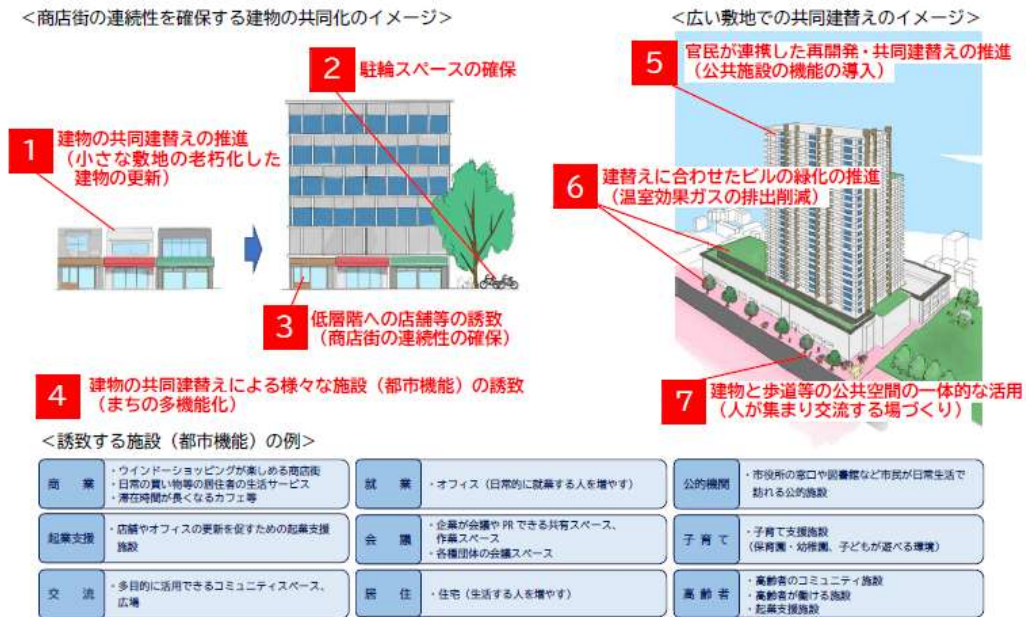


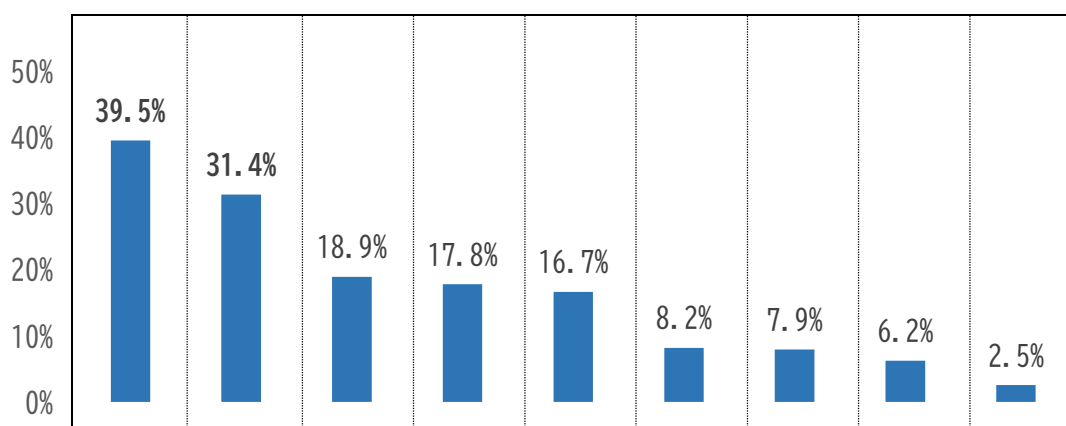
出典：松山市ホームページ



④市街地の再整備のイメージ（例）

1)建物の建替え・共同建替えの推進による施設(都市機能)誘致のイメージ





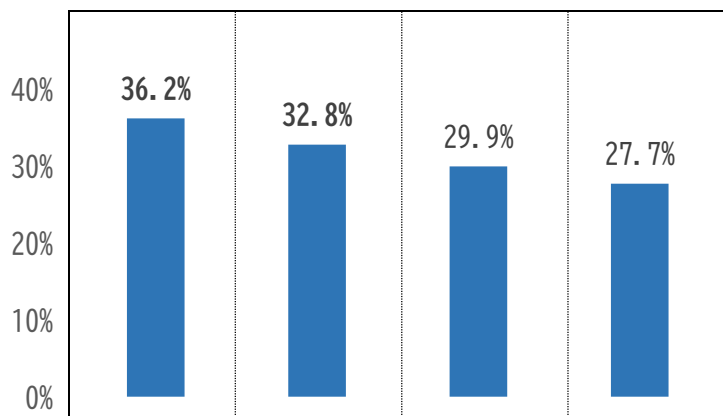
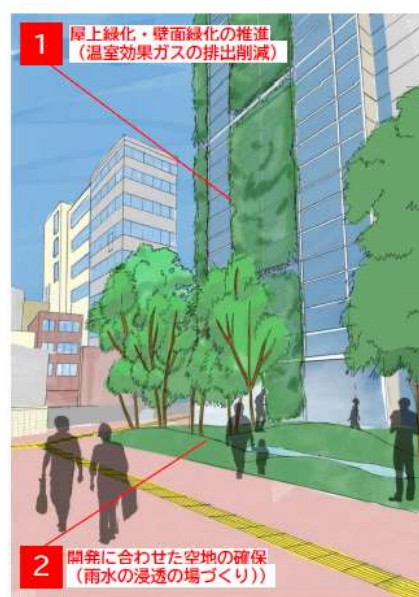
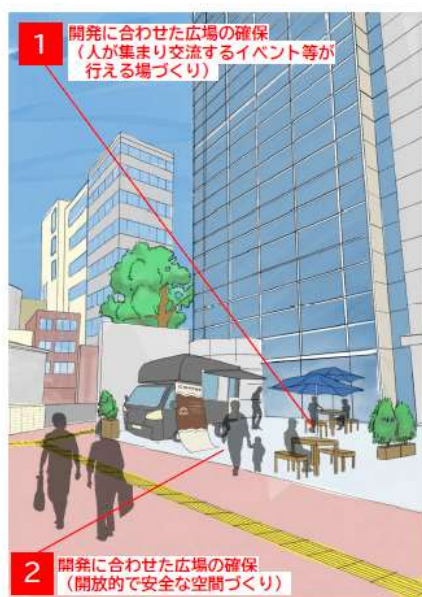
【比較の差】

- 全体+10pt
- 全体+ 5pt
- 全体- 5pt
- 全体-10pt

	(n)	子育て	商業	公的機関	高齢者	交流	起業支援	就業	居住	会議
全体	(354)	39.5%	31.4%	18.9%	17.8%	16.7%	8.2%	7.9%	6.2%	2.5%
10代	(81)	34.6%	38.3%	14.8%	8.6%	11.1%	3.7%	11.1%	2.5%	2.5%
20代	(29)	48.3%	37.9%	17.2%	17.2%	13.8%	13.8%	3.4%	3.4%	0.0%
30代	(92)	53.3%	30.4%	14.1%	13.0%	16.3%	9.8%	9.8%	6.5%	3.3%
40代	(39)	56.4%	23.1%	20.5%	12.8%	23.1%	2.6%	0.0%	7.7%	0.0%
50代	(37)	27.0%	43.2%	27.0%	24.3%	21.6%	13.5%	8.1%	10.8%	5.4%
60代	(44)	22.7%	29.5%	20.5%	38.6%	11.4%	9.1%	9.1%	6.8%	4.5%
70代以上	(32)	21.9%	9.4%	31.3%	25.0%	28.1%	9.4%	6.3%	9.4%	0.0%

2)開発にあわせた人が集まり交流する場確保のイメージ

3)環境に配慮した都市開発のイメージ



【比較の差】

- 全体+10ポイント
- 全体+5ポイント
- 全体-5ポイント
- 全体-10ポイント

	(n)	壁面緑化・ 屋上緑化の 推進	人が集まり交流する イベント等が行える 場づくり	安全な開放的で 空間づくり	開発に合わせた 空地の確保
全体	(354)	36.2%	32.8%	29.9%	27.7%
10代	(81)	44.4%	40.7%	29.6%	29.6%
20代	(29)	34.5%	65.5%	34.5%	27.6%
30代	(92)	37.0%	31.5%	25.0%	28.3%
40代	(39)	30.8%	10.3%	25.6%	12.8%
50代	(37)	40.5%	32.4%	43.2%	29.7%
60代	(44)	36.4%	25.0%	31.8%	40.9%
70代以上	(32)	15.6%	25.0%	28.1%	18.8%

個別意見（要約）

駅前広場	北口、南口、西口間で移動しやすい空間にしてほしい
	辻堂駅や藤沢駅などの例のように、ペデストリアンデッキとウォークアブルを両立できるとよい
	ロータリー周辺の駅の顔となる場所に、シンボリックな施設を誘致できるとよい
	駅前広場等を活用できる場がないのではないかと
	駅ホーム上を商業施設にすれば床が活用できる
駅周辺に望まれる機能	多くの人が集まる施設が駅周辺にあるとよい
	市民センターや小さい子どもが遊べる公園、特に保健センターなどがほしい
	公的機関の機能がほしい。手続き関連の利便性とそれに伴う人の溜まりが期待できる
	スポーツイベントができる場がほしい
	図書館がほしい
駐車場・駐輪場	現状だと駐車場が少ない
	自転車置き場を集約できないか
	駐車スペースは駅から離れてもよいので、電動キックボードのようなもので回遊するのもよい
公園・広場	公園や広場の多様な活用により、回遊しながら見附台ホールを目指す人も増えるのではないかと
	水遊びができる場や公園の遊具を増やしてほしい
歩行環境・交通	歩道橋はバリアフリーを考えると減らすべき
	歩行者と自転車の分離による安全な歩行環境が必要
	茅ヶ崎駅周辺は空地でのイベントなど、さまざまな体験ができ、回遊性が出ているので参考にしてはどうか
	JRの連続立体交差化。R129の地下道の改善
その他	空き店舗を減らしてほしい
	現状はごちゃごちゃして視界が開けていない
	学生を取り込んでまちに活気をもたらす方法を参考にしてほしい。校舎が難しくても、駅周辺に学校の機能を持ってくればまちは自ずと盛り上がる
	若い世代には割引をするなどして、駅周辺に住んでもらってはどうか。若い人がいるとまちが活気づく
	プロスポーツを活かしたまちづくり（駅周辺から総合公園までのアクセス充実化）
	客引きなど、駅周辺はイメージが悪い
	イベントの常時開催と情報発信

第3章 結果の考察

① 賑わい・交流拠点となる駅前広場

デジタルサイネージの整備を望む意見は、60歳代以上で全体よりも約7pt高くなりました。今後、高齢化社会が一層の進展を迎える中で、まちの情報発信が引き続き必要であることが伺えます。

芝生広場やペDESTリアンデッキの整備は約半数となる46ptとなり、幅広い年代から支持がありました。駅前広場として、交通機能よりも交流・滞留機能が望まれていることがわかります。

誰もが歩きやすい歩行環境の整備が、全体で40.4ptと高くなりました。また、この傾向は20～30歳代の子育て世代で顕著で、60歳代より上の世代では全体よりも低い値となっています。駅周辺はバリアフリー化がされており、高齢者にとって歩きやすい歩行環境は整っていることから、バリアフリー水準以上の歩きやすさが求められていることがわかります。子どもを連れて歩いたり、ベビーカーを使用する機会の多い子育て世代にとっての歩きやすさについては、さらに検討する必要があります。

開発に合わせた樹木・芝生広場の確保は全体で31.6ptとなり、樹木や芝生をはじめとしたグリーンインフラへのニーズが高いことがわかります。

② 道路のイメージ

誰もが歩きやすい歩行環境の整備は全体で44.6ptと、駅前広場の項目と同様に、ここでも高い値となりました。また、傾向も類似性が見られ、20～30歳代は全体よりも5～10ptほど高い一方、60歳代より上の世代では、全体よりも10～15ptほど低くなっています。

デザインを統一した空間づくりは、20歳代で17.4pt、30歳代で7.5pt全体よりも高く、若い世代において、魅力的な商店街や通りごとの個性など、街並みの魅力への賛同が多いことがわかります。

道路上でのキッチンカーや屋台の出店は、全体で36.2ptとなり、特に10～20歳代で高いことが特徴です。この項目については、年代が上がるにつれ低くなる傾向にあり、70歳代以上では18.8ptと、10代と比較すると30.6ptの開きがありました。

道路への椅子やベンチの設置については、10～20歳代で全体よりも5～10pt高くなっており、先ほどのキッチンカーや屋台の出店に関するニーズが高いことを踏まえると、特にこの世代において、座ってゆっくり食事ができる空間づくりが求められていると考えられます。

③ 公園・広場等のイメージ

芝生広場を求める意見は、全体で31.6ptとなりました。また、10～20歳代で高い値となっている一方で、60歳代より上の世代は全体よりも10pt以上低くなっています。

空き地を有効活用したポケットパークや広場は全体で40.7ptとなり、中でも10歳代が最も高くなりました。先ほどの芝生広場の傾向も踏まえると、こうした滞留・交流・休憩等のスペースは、特に若年世代ほど重要度が高いことが伺えます。

④ 市街地の再整備のイメージ

駐輪スペースについては全体で 35.3pt となり、特に 10 歳代は 59.3pt と高くなりました。これは、この世代は車やバイクなどの交通手段がなく、自転車移動に頼らざるを得ないことが要因であると考えられ、駐輪ニーズの適切な把握と対応により、駅周辺における若年世代の活気に寄与する可能性を示唆しています。

人が集まり、交流することが出来る場については、全体で 32.8pt となり、10～20 歳代で全体より 5～10pt 高くなりました。特に 20 歳代は 65.5pt と 7 割に迫る賛同が得られ、ここでも滞留・交流・休憩等のスペースの重要度の高さが伺えます。

その他 必要な都市機能

まちの多機能化に関する意見の中でも、特に子育てに関する機能については、その当事者である 20～40 歳代において全体より 10～15pt 高くなっており、強く求められていることがわかりました。今後、子育て機能の必要性や、具体的な施設内容について検討する必要があります。